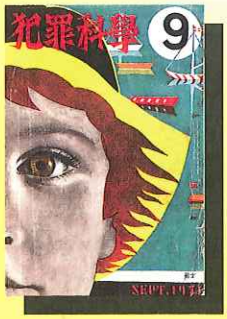


風俗史、文学、性科学、犯罪社会学研究の宝庫！

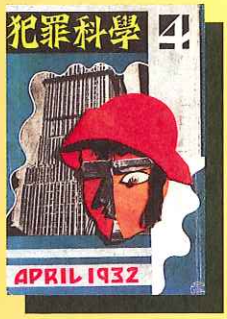
犯罪学、法医学の研究報告を軸に

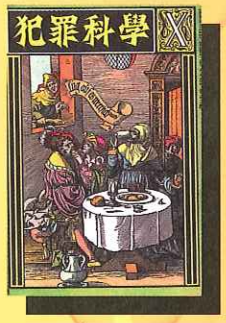
探偵小説、犯罪実話、古今東西の

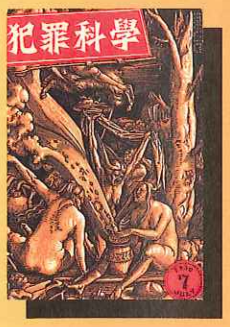
猟奇譚などを混在させた総合雑誌を復刻！

犯罪科學

復刻版　全21巻・別冊1







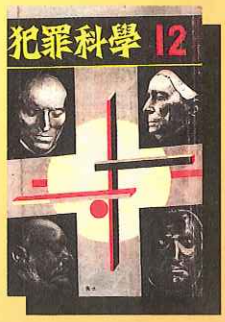
原誌発行元＝武俠社　1930年6月～1932年12月

解　説：　馬場伸彦（甲南女子大学准教授）

推　薦：　斎藤　光・坪井秀人・吉田司雄

配　本：　全4回配本 2007年10月～2008年8月

定　価：　本体揃価格378,000円＋税



不二出版

復刻の辞

エログロナンセンス的風潮がピークを迎える昭和五年、『犯罪科學』は、華やかな都市生活から隠蔽された裏面を暴露すること、人間精神の暗黒面を探求することを目的として刊行された。発行元は武侠社。発行人は杉山清太郎、田中直樹、今田謹吾の三名である。

本誌は、犯罪学、法医学に関する研究報告に加えて、犯罪（探偵）小説、犯罪実話、内外の猟奇譚を満載し、性に関する様々な論考を混在させ、学術と現実を繋ぐ猟奇趣味の雑誌として人気を博した。

第一の構成要素は犯罪学、性科学、心理学である。内容をテーマ別に示すと次のようになる。

犯罪――戦争・毒ガス・スパイ・賭博・私刑・奇刑・人肉食・麻薬・自殺等々

性――堕胎・避妊・売春・変態性慾・密通・性器崇拝・強姦・同性愛等々

心理――神経症・催眠術・読心術・夢・憑き物・心中・タブー・放火等々

第二の構成要素は二二回にわたって掲載された「グラフ・モンタージュ」である。「グラフ・モンタージュ」とは、複数の写真を意図的に編集して、それぞれに独自の文章（テーム）を添えることにより、新たな視覚的文脈として再構成された組写真である。たとえば都会の断片や細部を切り取った微視的なスナップ写真と全体を俯瞰する巨視的な写真の組合せ。それは私たちを、映画を観るがごとくに、三〇年代のモダン都市にいざなう。

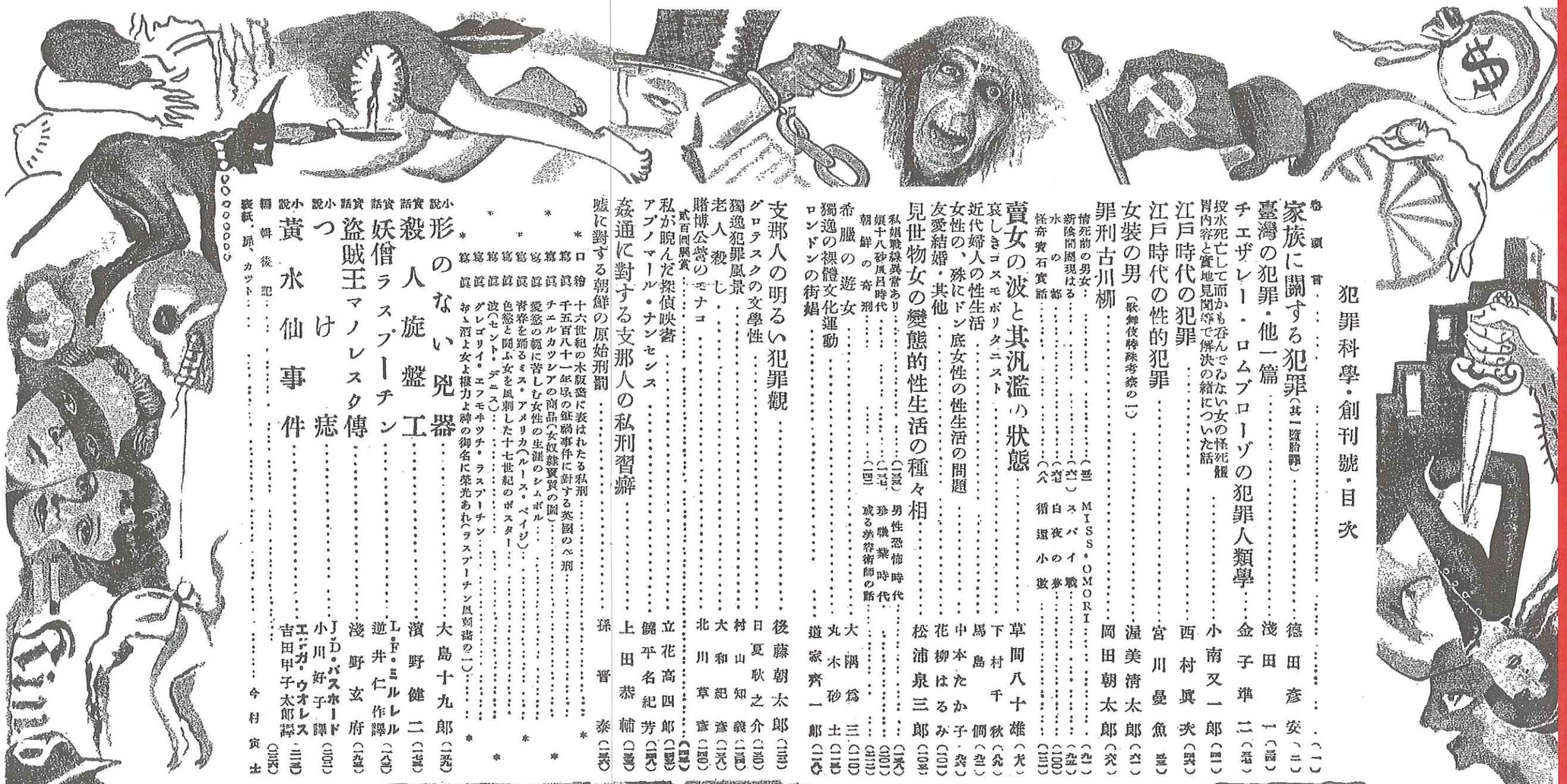
第三の構成要素は欧米、ロシア、アジアなど全世界の奇習の紹介である。とりわけ朝鮮や「満州」、台湾などアジア諸国の性に関する報告が多数掲載されている。同様に伊波普猷や金城朝永が琉球の「性生活」について論考を数多くよせているのも貴重である。

弊社では一九三〇年六月（創刊号）から一九三二年一二月（三巻一六号）までの全三七冊を全二一巻に合本して復刻刊行する。一九三〇年代の文化史研究にとって不可欠な資料となるであろう。

不二出版

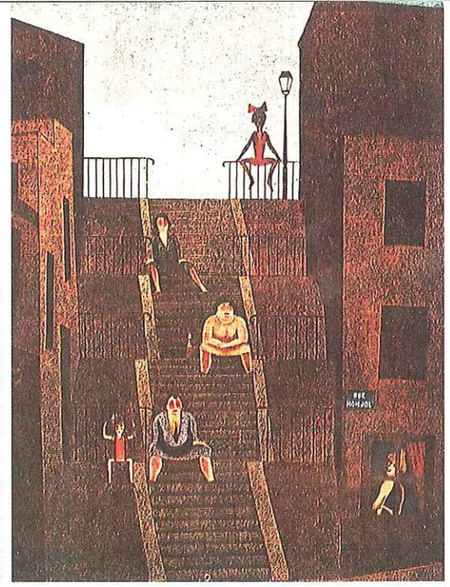
主な執筆者

青野季吉	千田是也
秋田雨雀	武田麟太郎
伊波普猷	田中香涯
今村寅士	田中直樹
岩田準一	谷崎潤一郎
巌谷小波	辻　潤
大隅為三	東郷青児
大槻憲二	新居　格
尾崎士郎	長谷川如是閑
大仏次郎	秦　豊吉（丸木砂土）
神近市子	林　芙美子
喜田貞吉	日夏耿之介
北野博美	布施辰治
金城朝永	舟橋聖一
金田一京助	堀野正雄
草間八十雄	三田村鳶魚
倉田百三	村山知義
甲賀三郎	室生犀星
小宮豊隆	望月百合子
今　和次郎	梁川剛一
近藤日出造	山田清三郎
西条八十	横瀬夜雨
島　洋之助	横山隆一
下中弥三郎	吉行エイスケ



犯罪科學・創刊號・目次

卷頭言 …… （一）
家族に關する犯罪（其一 堕胎罪） …… 徳田彦安（二）
臺灣の犯罪・他一篇 …… 浅田一（四）
チエザレー・ロムブローゾの犯罪人類學 …… 金子準二（五）
投水死亡して而かも呑んでゐない女の怪死體 胃内容と實地見聞等で解決の緒についた話 …… 小南又一郎（四一）
江戸時代の犯罪 …… 西村眞次（四六）
江戸時代の性的犯罪 …… 宮川曼魚（三）
女裝の男（歌舞伎特殊考察の一） …… 渥美清太郎（六一）
罪刑古川柳 …… 岡田朝太郎（六六）
情死前の男女 …… （四一）
新除間國現はる …… （六二）
水郷の …… （七二）
怪奇實石實話 …… （八）
白夜の夢 …… （一〇〇）
循環小數 …… （一一）
賣女の波と其汎濫の狀態 …… MISS・OMORI（九一）
哀しきコスモポリタニスト …… スパイ戰（九五）
近代婦人の性生活 …… （一〇五）
女性の、殊にドン底女性の性生活の問題 …… 草間八十雄（九）
友愛結婚・其他 …… 下村千秋（九九）
見世物女の變態的性生活の種々相 …… 馬島個（九九）
私娼戰線異常あり …… （一〇五）
頃十八砂風呂時代 …… 中本たか子（一〇六）
朝鮮の奇刑 …… （一〇七）
希臘の遊女 …… 花柳はるみ（一〇八）
獨逸の裸體文化運動 …… 松浦泉三郎（一〇九）
ロンドンの街娼 …… （一一〇）
支那人の明るい犯罪觀 …… 後藤朝太郎（一一一）
グロテスクの文學性 …… 日夏耿之介（一一〇）
獨逸犯罪風景 …… 村山知義（一一四）
老人殺し …… 大和紀彦（一一六）
賭博公營のモナコ …… 北川草彦（一一八）
貳百圓賞 …… （一一九）
私が覗んだ探偵映畫 …… 立花高四郎（一一九）
アプノマール・ナンセンス …… 饒平名紀芳（一一八）
姦通に對する支那人の私刑習癖 …… 上田恭輔（一一九）
嘘に對する朝鮮の原始刑罰 …… 孫晋泰（一二六）
口繪 …… （一六）
寫眞 十六世紀の木版畫に表はれたる私刑 …… （一六）
寫眞 千五百八十一年頃の雷鳴事件に對する英國のペ刑 …… （一六）
寫眞 チエルカツシアの商品（女奴隷買賣の圖） …… （一六）
寫眞 愛慾の餌に苦しむ女性の生涯のシムボル …… （一六）
寫眞 青春を賭るミス・アメリカ（ルース・ベイジ） …… （一六）
寫眞 色慾と闘ふ女を風刺した十七世紀のポスター …… （一六）
寫眞 波（セント・デニス） …… （一六）
寫眞 グレゴリイ・エフモキツチ・ラスプーチン …… （一六）
寫眞 おゝ酒よ女よ權力よ神の御名に榮光あれ（ラスプーチン風刺畫の一） …… （一六）
小説 形のない兇器 …… 大島十九郎（一九五）
實話 殺人旋盤工 …… 濱野健二（一九六）
實話 妖僧ラスプーチン …… L・F・ミルレル 逆井仁作譯（一八七）
實話 盗賊王マノレスタ傳 …… 淺野玄府（一九五）
小説 つけ癖 …… J・D・バスホード 小川好子譯（二〇二）
小説 黄水仙事件 …… エドガ・ウオレス 吉田甲子太郎譯（二二七）
編輯後記 …… 今村寅士
裏紙、扉、カット …… （二二七）



「客を待つ街娼」（ルシエン・パウチェル筆）

ウラのオモテ オモテのウラ

――文化史研究の一大リソース

坪井秀人（名古屋大学大学院教授）

『犯罪科學』という雑誌の名前は、かつて飛び降り自殺のことを調べていて山名冬骨の「飛降り自殺史」という同誌掲載の文章に出くわして初めて知った。山名はこの雑誌には他に「遺書の研究」「遺書の形態」二本を書いているのみだが、いずれもが他に類のないユニークな内容なのだ。自殺者たちのデータを集め事細かに分類して、例えば「教員は例外なしに遺書あり」などと分析してみせたりする。科学的実証を装いながら「ほんまかいな？」と苦笑して首を傾げさせる少々あぶなっかしい際物ぶり。しかし、こうしたあぶなっかしさこそが一九三〇年代メディア、『犯罪科學』の魅力でもあるのだ。方法論や指向性については大正期の『変態心理』や一九二〇年代後半の今和次郎の考現学の試みなど先例は幾つかあるが、そこは一九三〇年代。世態風俗の裏面を暴きながら、深層を因果論的に掘り下げるなどという野暮なことはしない。ウラはウラでもその表層の次元に徹するという姿勢が、七〇年を経た現代でも新鮮な刺激を与えるのだ。ウラのオモテはオモテのウラでもあるという、徹底的に時代の表層にこだわった視線は、軽々と同時代の倫理の臨界を超出していく批評力を持っていた。来るべき一九三〇年代後半の言論の窒息状況に照らしてみるとき、『犯罪科學』は一筋のするどい光芒を放っていたと言えよう。「犯罪科學全集」「性科學全集」等を次々に世に送り出した武侠社の出版戦略や、丸木砂土こと秦豊吉など破天荒な執筆者たちの個々の軌跡を捉え直す上で『犯罪科學』の全貌を見渡すことは避けられない。一九三〇年代の文化史研究にとって不可欠なリソースである所以である。

一九三〇年代の「性」を知る基本文献

斎藤 光（京都精華大学教授）

一九三〇年五月九日、『讀賣新聞』に『犯罪科學』創刊号の広告が打たれた。そこには「二ヵ年であらゆる猟奇的記事と犯罪科学、性科学を網羅せんとする新計画の雑誌」と謳われていた。

「猟奇的記事」が満載されたのか、といえば、それはやや大げさで、誇大評価となろう。むしろ、犯罪も含むモダンな世相の記録や分析の試み、といったほうがいい。ちょうど時代は、経済恐慌や世界戦争という巨大な変動の波に飲まれつつあった。そうした強力な国際的国家的動向を背景としながら、新しいモダニズム文化が進行する。その魅惑と蠱惑が『犯罪科學』では点描されているのだ。

もちろん犯罪も取り上げられる。しかし、それだけではない。友愛結婚もあれば、ヌーディズムもある。カフェもあれば、曲馬団もある。コスモポリタンな時代の近代的空気圧が、日本だけではなく、巴里、上海、紐育など世界各地で測られて、誌面を構成した。

分析の道具は、犯罪学を含む性科学だ。モダンガールやサラリーマンも、その性的側面から観察される。が、中でも重要なのは岩田準一が連載した「本朝男色考」とヒルシュフェルト博士の日本滞在の記事だろう。この二点があるだけでも、この雑誌は、「性」の思想・文化・社会史上で重要な位置をしめる。

それだけではない。誌面の細部にわたり、当時の「性」のあり方を示す「謎」がいまだ未解明のまま眠っている。『犯罪科學』の復刻は、三〇年代前半の「性」を覚醒させる尖端的プロジェクトなのだ。

探奇趣味と学術探訪ため、即刻『犯罪科學』を摑め！『犯罪科學』を耽読することで、私たちは、私たちの「性」がどこから来たのか、そしてどこへ行こうとしているのか、そのことを知るであろう。

「性問題」を深く考察する上での必携の文献群である。

「ボヘミアン」（ジャン・マンメン筆）

探偵の目で生きる

吉田司雄（工学院大学教授）

科学と文学の融合を標榜した探偵小説の歩みが、科学的な捜査を企図する犯罪人類学や犯罪心理学の台頭と深い関わりがあることは言うまでもないだろう。

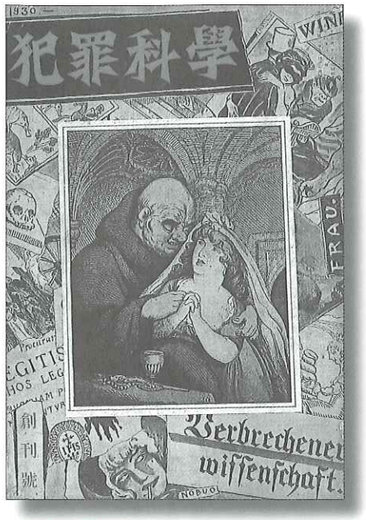
江戸川乱歩の「D坂の殺人事件」に描かれる、若き日の明智小五郎の下宿の一室に堆く積み上げられた犯罪学の書物の数々。それらは探偵の脳髄を活性化するのみならず、退屈にまみれた都市遊歩者としての明智に日々新たな夢想を提供してくれるパン種でもあったはずだ。科学は合理的精神によって闇でうごめくものたちを単に白日の下にさらしたのではない。むしろ科学は、新しい幻想をはぐくむ繭だったのである。一九二〇年代から三〇年代にかけて急速に変貌してゆく大都市を、時に群集にまみれながら歩き、時に喫茶店で冷やし珈琲をすすりながら窓越しに眺める名探偵の目には、どんな光景が映じていたのだろうか。

『犯罪科學』誌を読むと、当時の人々が犯罪に向けていた眼差しの諸相が浮かび上がってくる。それは、探偵の眼差しを持って昭和モダニズム期の日本を読み直すという知的冒険へとつながってゆくはずだ。とりわけ、同誌の大きな特徴であるグラフ・モンタージュは、都市をめぐる新たな幻想が生成されてゆく様をあざやかに示していると言えよう。ヴァルター・ルットマンの『大都会交響曲』とも深く共鳴する、惑わしと驚愕に満ちた視覚体験。探偵の目で世界を見返すとき、どれほど多くの恐怖と魅惑とが発見されるものなのか。私たちはまずそこから驚かずにはいられないだろう。

1931年9月号の表紙絵

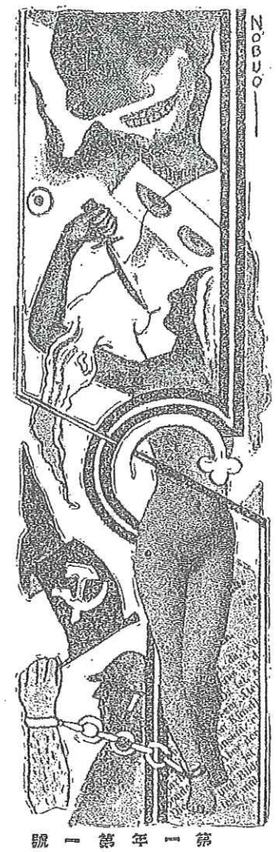
上から順に、「フランクリン・D・ルーズベルト」、そして、1931年12月号掲載の図版

本文見本（徳田彦安による論考、1930年6月、創刊号より）



創刊号の表紙

犯罪科學



家族に關する犯罪

―其一、墮胎罪―

第一年第一號

六月創刊號

目次

緒論――家族に關する犯罪とは如何なる意義を有するや（本號掲載）
本論――墮胎罪　本號掲載）
一、我が國上古及び中世に於ける墮胎の概觀（本號掲載）
二、德川時代に於ける墮胎の形式（本號掲載）
其一、――如何なる場合に行はれしや（本號掲載）
三、德川時代に於ける墮胎の形式（次號掲載）
其二、墮胎の方法（墮胎藥及び墮胎術等）（次號掲載）
四、德川時代の墮胎に對する制裁並びに政策（次號掲載）
五、明治以後に於ける我が國墮胎の概觀（三號掲載）
六、諸外國に於ける墮胎の概觀（三號掲載）
七、墮胎の社會的機能――墮胎が社會的目的に對する如何なる關係を有するや（三號掲載）
八、結　論（三號掲載）

緒　言

敢て『家族に關する犯罪』と云ふ、この吾人の使用する『家族に關する犯罪』とは凡そ如何なる意義を有し、如何なる內容を包含するものであるか、吾人は先づ茲に之を明瞭にして置かなければならない。これを明らかにすることは即ち吾人が以下逐次に述べんとする問題の意義及び該問題に對する吾人の觀方――研究態度乃至研究方法をも――確立する所以に外ならないからである。從つてこれを豫め了解して置く事は讀者にとつても少なからず便益する所が多からうと信ずる。

吾人は所謂『家庭』と云ふ語を用ゐずして『家族』と云ふ熟語を使用する。此は次の樣な理由によつてゞある。

人が地球上に形成する集團の內、家族と云ふ團體は世上一般のそれとは著しく異つた面白い特質を具有する團體である。これを極めて簡單に說明するれば、家族といふ集團は、

（第一）其性質に於て家族以外の團體とは甚しく異つてゐる。換言すれば家族は夫婦、親子と云ふ樣な血緣的類似の非常に大なるものゝ集團であるのが通例である。時には僕婢の如きも家族の一成員として目さるゝ場合もあらう、然かも家族といふ團

『犯罪科學』一九三二年六月号
グラフ・モンタージュ（カメラ・堀野正雄）
「浅草に生きる人びと」特集の「ひどいくらい」より

関連図書

社会心理学・社会精神医学の先駆的雑誌を全冊復刻！

中村古峡＝主幹
日本精神医学会＝発行
一九一七年～一九二六年

変態心理

全34巻・別冊1

「変態」とは「常態」でないこと、「変態心理」とは異常心理、超心理をいう。大正六年創刊の本誌は、現在でいうところの多重人格、トラウマ、精神病質、神経衰弱、心霊現象、催眠現象、マインド・コントロール、サイコセラピーから買売春、嬰児殺し、ドメスティック・バイオレンス、幼児虐待、ストライキなどのさまざまな「変態」の具体的事例を満載した研究雑誌である。心理学・精神医学はもとより、近代文化史とくに文学・性・女性・宗教・教育・風俗・犯罪・差別などの分野に広く活用できる資料の宝庫である。

編集委員▼小田　晋・栗原　彬・佐藤達哉
曾根博義・中村民男

体　裁▼A5判・上製・総一二、〇〇〇頁
別　冊▼解説（曾根博義）・「中村古峡と私」（中村民男）・総目次・索引
（別冊のみ分売可＝本体三、〇〇〇円＋税）
揃定価▼本体三〇三、〇〇〇＋税

一九二〇年代の「性問題研究の最高級雑誌」、全冊復刻！

田中香涯＝主宰
日本精神医学会＝発行
一九二二年～一九二五年

変態性慾

全6巻・別冊1

田中香涯が『変態心理』主幹・中村古峡の全面的協力によって発刊した性研究の純学術雑誌。性研究こそが人間と社会問題にとって緊要だという信念のもと、当時「変態」すなわち「異常」と呼ばれた性のあらゆる形態を究明。生殖器の機能、疾患・同性愛・トランスセックス・買売春・婚姻外性交・避妊・人工妊娠中絶・生殖器信仰・性犯罪・性文学・性美術・性暴力・心中などを論じている。

性科学研究はもとより教育・医学史・女性・文化史研究に貴重な文献！

解　説▼斎藤　光
体　裁▼A5判・上製・総約二、三〇〇頁
別　冊▼解説・総目次・索引
（別冊のみ分売可＝本体五〇〇円＋税）
揃定価▼本体九〇、〇〇〇＋税

「同性愛」をめぐるさまざまな言説を収集した待望の資料集成！

【編集復刻版】
戦前期

同性愛関連文献集成

全3巻

「衆道」「男色」「鶏姦罪」「硬派」「美少年」などのキーワードに表される性愛の様相だけでなく、「同性心中」「エス」「男装」やスター的存在への憧憬も含めた女性たちの親密な関係をも包括した資料を収載。

性的マイノリティとしての同性愛者、そして家父長制下における女性たちの親しいつながりが、どのように認識され、扱われたのか――

これまで近現代日本史に欠落していたもうひとつの愛情や親密な関係のありようを明らかにする資料集成。

編・解説▼古川　誠・赤枝香奈子
体　裁▼A4判・上製・総一、〇八〇頁
揃定価▼本体七五、〇〇〇＋税

「性」に科学的に真向かい、開かれた性教育を求めた性研究雑誌の草分け！

太田典礼＝主宰
一九三六年～一九三七年

性科学研究

（改題『性教育』）
全2巻

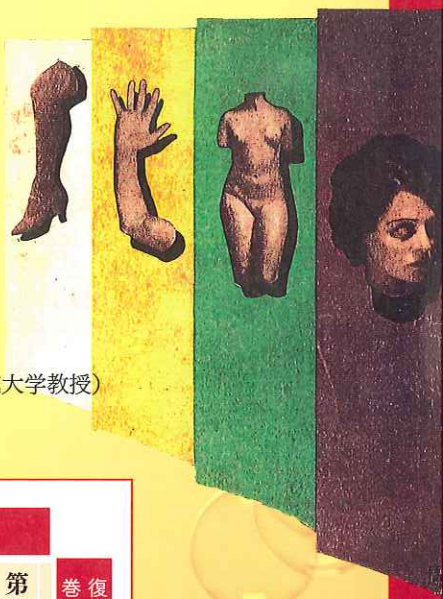
産児調節運動家の医師で避妊リング＝太田リング発案者、性科学のパイオニアでもある太田典礼が主宰した性科学雑誌。各地での性風俗、性教育、大学生の性意識・体験調査、性の歴史研究、性犯罪、生殖科学、売春の歴史、性病、産児調節・堕胎・恋愛論まで、広く性全般を網羅し、「真面目な性科学の確立と普及」を目的とした。

性教育普及会の機関誌として、1巻11号からは『性教育』と改題、刊行の意図をより鮮明に打ち出し、早くからの性教育を訴え、老人の性も含めた多様な性へのアプローチをおこなった。

一五年戦争のさなかに出されたラディカルな性研究誌としてセクソロジー・性教育・女性問題研究に必須の文献である。

解　説▼斎藤　光
体　裁▼A5判・上製・総約一、四〇〇頁
附　録▼解説・総目次・索引
（附録のみ分売可＝本体一、〇〇〇円＋税）
揃定価▼本体四五、〇〇〇＋税

犯罪科學 復刻版 全21巻・別冊1



復刻版概要

原誌発行元＝武侠社1930年6月（第1巻第1号）～ 1932年12月（第3巻第16号）

体　裁▶ A5判・B5判・上製・総約11,000頁

解　説▶ 馬場伸彦（甲南女子大学准教授）

別　冊▶ 解説・総目次・執筆者索引

（別冊のみ分売可＝本体1,000円＋税）ISBN978-4-8350-6112-2

定　価▶ 本体揃価格378,000円＋税

推　薦▶ 斎藤 光（京都精華大学教授）・坪井秀人（名古屋大学大学院教授）・吉田司雄（工学院大学教授）

配　本▶ 全4回配本2007年10月～ 2008年8月

復刻版巻数	原誌巻数	原誌発行年月	本体価格 配本年月
第1回配本			**90,000円＋税 2007年10月** ISBN978-4-8350-6087-3
第1巻	第1巻第1号～第2号	一九三〇年六月～七月	
第2巻	第1巻第3号～第4号	一九三〇年八月～九月	
第3巻	第1巻第5号～第6号	一九三〇年一〇月～一一月	
第4巻	第1巻第7号～第2巻第1号	一九三〇年一二月～一九三一年一月	
第5巻	第2巻第2号～第3号	一九三一年二月～三月	
第2回配本			**90,000円＋税 2008年2月** ISBN978-4-8350-6093-4
第6巻	第2巻第4号～第5号	一九三一年四月～五月	
第7巻	第2巻第6号～第7号	一九三一年六月～七月	
第8巻	第2巻第8号（別巻）＊	一九三一年七月	
第9巻	第2巻第9号～第10号	一九三一年八月～九月	
第10巻	第2巻第11号～第12号	一九三一年一〇月～一一月	
二〇〇七年度合計　本体一八〇、〇〇〇円＋税			
第3回配本			**90,000円＋税 2008年5月** ISBN978-4-8350-6099-6
第11巻	第2巻第13号～第14号	一九三一年一二月	
第12巻	第3巻第1号～第2号	一九三二年一月～二月	
第13巻	第3巻第3号～第4号	一九三二年三月～四月	
第14巻	第3巻第5号～第6号	一九三二年四月～五月	
第15巻	第3巻第7号	一九三二年六月	
第4回配本			**108,000円＋税 2008年8月** ISBN978-4-8350-6105-4
第16巻	第3巻第8号（臨時増刊）＊	一九三二年六月	
第17巻	第3巻第9号	一九三二年七月	
第18巻	第3巻第10号～第11号	一九三二年八月～九月	
第19巻	第3巻第12号（臨時増刊）＊	一九三二年九月	
第20巻	第3巻第13号～第14号（増刊）	一九三二年一〇月	
第21巻	第3巻第14号・第16号	一九三二年一一月～一二月	
別冊	（解説・総目次・執筆者索引）		
二〇〇八年度合計　本体一九八、〇〇〇円＋税			

（註1）＊印の巻数はB5判を示す　（註2）第3巻第15号は発禁のため未見・未収録

＊表示価格はすべて税別

不二出版

▶ 〒113-0023 ▶ 東京都文京区向丘 1-2-12
▶ TEL 03-3812-4433 ▶ FAX 03-3812-4464
▶ 振替 00160-2-94084

2007年9月